

## 施策6～8、焼却施設関連(当日配布資料)

### 6. 安定かつ効率的な収集・処理体制

#### 6-2 焼却施設の更新及び統合

資料5

#### ◎現状／課題

○ごみ量の減少  
 ・人口減少に伴うごみ量減少により、適正な処理体制の構築が必要  
 ・小規模な焼却施設(鎧淵・豊栄)では処理経費高に加え、余熱の十分な活用ができない。

○施設の老朽化  
 ・稼働年数: 亀田(約22年)、鎧淵(約17年)、豊栄(約38年)  
 ・全国的な更新年は約25年  
 ・老朽化による故障等のリスク増

#### ◎今後の方向性

☆施設の更新及び統合  
 ・今後のごみ量を踏まえ、①点検・故障時のリスク、②既存施設の活用、③費用(稼働コストの低減)、CO2排出量の観点から施設数を検討  
 ⇒現在の4施設→2施設(新田+新施設)に統合

☆施設特性を生かした付加機能の検討  
 ・新たな施設では、以下の機能を検討  
 廃棄物発電の増強・活用／余熱の多用途利用／防災拠点／環境教育の場などを検討

### 7. 低炭素社会に向けた処理施設の活用

#### 7-1 廃棄物エネルギーの活用

#### 7-2 発電電力の地産池消

資料6

#### ◎現状／課題

○廃棄物エネルギーの利用状況  
 ・小規模施設(鎧淵・豊栄)では、発電能力が低く、また設備自体がない施設もあるため、焼却時での熱エネルギーを活かしきれていない。  
 ・熱エネルギーの活用先が焼却施設に隣接するプールや温浴施設に限定

○発電した電力の活用先  
 ・廃棄物発電(再生可能エネルギー)の余剰電力は地域外で消費  
 ・R1年度から発電電力の地産池消を開始(低炭素化の一翼を担う)

\*新潟市地域新電力事業  
 市・焼却場建設業者・地銀の三者で地域新電力会社を設立、新田清掃センターの余剰電力を市の施設に供給  
 \*発電電力の自己託送モデル実証事業  
 亀田清掃センターの余剰電力を東北電力の送電線網を利用して市の施設に供給

#### ◎今後の方向性

(7-1)  
 ☆廃棄物エネルギーのさらなる利活用  
 ・施設統合に合わせて更新施設の処理規模を高めることにより、発電の効率を向上  
 ・地域での活用(還元)や産業振興など、熱エネルギーの活用方法を検討

(7-2)  
 ☆廃棄物発電の地産池消の拡充  
 ・市の施設に限らず、市内の民間施設等への供給拡大も検討

### 8. 大規模災害に備えた体制整備

#### 8-2 災害時も稼働できる処理施設の整備

資料8

#### ◎現状／課題

○大規模地震により焼却施設は自動停止(安全停止)  
 これにより焼却施設は稼働不能となり、受入のみの対応

#### ◎今後の方向性

☆大規模災害時にも稼働可能な施設更新  
 ・耐震性の確保、浸水対策により災害に対応できる施設  
 ・災害停電時にも対応できる大型非常用発電機の設置  
 ⇒大規模災害時における処理体制の早期復旧

☆施設特性を活かした付加機能の検討  
 ・更新施設では、廃棄物発電の増強・活用、余熱エネルギーの利活用、防災拠点、環境教育としてのさらなる活用など付加機能を検討